



カニはどうしてはさみをもっているの

獲物をつかんだり、食事の道具に使う

カニのはさみは、カニが食事をするときはしや、ナイフ、スプーンのかわりをします。海の近くの川辺などでよく見かけるアカテガニは、生きた虫や小さい動物の死体やイネなどの植物についている有機物(生き物が分解されてできた栄養分)を食べます。はさみで虫をつかまえ、食べるときも獲物がにげないように、はさみでがっちりはさんでいます。大きい獲物の死体は、はさみでむしって食べます。夏の海の浜辺で見かけるコメツキガニやシオマネキは、スプーンのように内側にそりかえたはさみで、砂をすくって口に入れます。砂に混じった有機物をこし取って食べているのです。いらぬ砂は、かたまりにして、口のはしからはさみではらい落とします。

メスと呼んだり、なわ張りを知らせる

はさみの片方だけが特別大きい、シオマネキというカニがいます。この大きいはさみは、オスだけにあり、メスを見かけると、このはさみをふり動かして、自分の巣あなにさそいます。はさみが大きいほど、りっぱなオスということになるのです。でも、この大きすぎるはさみは、砂を口に入れるときには役に立たず、小さいほうのはさみを使います。ほかのカニも同じように、はさみをメスを呼び寄せるのに使います。

また、はさみをふりあげて動かすことで、ここは自分のなわ張りだということを、同じ仲間のオスに知らせているようです。1ぴきのオスガニがはさみをふり動かすと、周りのオスがいつせいに、はさみをふり動かす、カニがダンスをしているように見ることがあります。敵をおどすのにも、はさみは役立ちます。(監修・杉浦 宏)

